

平成27年度 古典Aのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	古典A	単位数	2	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	右文書院 古典A 説話・随筆・故事・小話・漢詩・史話				
副教材等	古語辞典				

2 学習目標

古典としての古文と漢文を読むことによって、我が国の文化と伝統に対する関心を深め、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てる。

3 学習方法

- ① 教科書を繰り返し音読する。
- ② プリントを用いて読解を深める。
- ③ 作品のものの見方や感じ方, 考え方を話し合う。

4 学習計画

学期	月	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	古文 古今著聞集「母子猿」	①何度も繰り返し音読し, 古文のリズムに慣れる。 ②1年で学習した歴史的仮名遣いの特徴を再確認する。	①音読することによって, 古文のリズムに慣れ, 正しく読むことができたか。 ②歴史的仮名遣いの読み方が習得できているか。 プリントの提出。
	5	沙石集「児の飴食ひたること」	①何度も繰り返し音読する。	①歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し, 正しく読むことができたか。
	6		②古語辞典を利用して, 本文に適した意味を捉える。 ③係り結びを理解する。 ④話のあらすじを捉え, おもしろさを味わう。	②古語辞典の引き方を習得できたか。 ③係り結びが理解できたか。 ④本文を読み味わうことができたか。 プリントの提出。
	7	十訓抄「文字一つの返し」	①何度も繰り返し音読する。 ②活用語は終止形に直し, 古語辞典を利用して, 本文に適した意味を捉える。 ③係り結びを理解する。 ④話のあらすじを捉え, おもしろさを味わう。	①歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直し, 正しく読むことができたか。 ②活用語は終止形に直して, 的確に古語辞典を引くことができたか。 ③係り結びが習得できたか。 ④本文を読み味わうことができたか。 プリントの提出。
	9	徒然草「つれづれなるままに」	①出典について理解する。 ②暗唱するまで繰り返し音読する。 ③古語辞典を利用して, 正確な解釈をする。 ④『徒然草』執筆の動機や態度をまとめる。	①作品や作者について理解できたか。 ②暗唱できたか。 ③正確に解釈することができたか。 ④作品執筆の動機や態度が理解できたか。 プリントの提出。
	10	徒然草「これも仁和寺の法師」	①何度も繰り返し音読する。 ②古語辞典を利用して, 正確な解釈をする。 ③話のあらすじを捉え, おも	①正しく読むことができたか。 ②的確に古語辞典を引き, 正確に解釈することができたか。 ③本文を読み味わうことができ

2 学 期	11	枕草子「春はあけぼの」	しろさを味わう。 ①出典について理解する。 ②何度も繰り返し音読する。 ③古語辞典を利用して、正確な解釈をする。 ④有名な序段の内容を視覚的に理解する。	たか。 プリントの提出。 ①作品や作者について理解できたか。 ②正しく読むことができたか。 ③的確に古語辞典を引き、正確に解釈することができたか。 ④序段の内容を絵に表現することができたか。
		枕草子「ありがたきもの」	①何度も繰り返し音読する。 ②古語辞典を利用して、正確な解釈をする。 ③枕草子の類聚的章段の特徴を理解する。	プリントの提出。 ①正しく読むことができたか。 ②的確に古語辞典を引き、正確に解釈することができたか。 ③類聚的章段の特徴を理解することができたか。
	12	方丈記「ゆく河の流れ」	①出典について理解する。 ②何度も繰り返し音読する。 ③古語辞典を利用して、正確な解釈をする。 ④対句を理解する。	プリントの提出。 ①作品や作者について理解できたか。 ②正しく読むことができたか。 ③的確に古語辞典を引き、正確に解釈することができたか。 ④対句を理解できたか。
3 学 期	1	漢文 訓読の基本	①訓読の仕方を理解する。	①訓読の仕方を理解できたか。 プリント提出。
	2	「蜚雪」 「守株」 「推敲」	①返り点に注意して、訓読する。 ②書き下し文に直す。	①訓読することができたか。 ②書き下し文に直すことができたか。
	3	「画竜点睛」 「朝三暮四」 「蛇足」	③解釈する。	③語句の意味を確認しながら解釈することができたか。 プリントの提出

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す3つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
観点1 関心・意欲・態度	古典を読む楽しさを味わい、古典に親しむとともに、我が国の伝統と文化に対する関心を深めようとしている。
観点2 読む能力	まとまりのある古典を読み、古典に表れた思想や感情を捉え、自分の考えを深め、発展させている。
観点3 知識・理解	伝統的な言語文化及び言葉の特徴などの理解を深め、知識を身に付けている。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	備 考
学習状況の観察	◎	○	○	学習活動への参加の態度
小テスト	○	◎	◎	文法テスト・単語テストなど
提出物	◎	○	○	プリント・ノートなど
定期考査	○	◎	◎	年間5回実施

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です)

平成27年度 世界史Bの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	世界史B	単位数	4	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	高校世界史B（山川出版社）				
副教材等	歴史風景館 世界史のパビリオン（とうほう）				

2 学習目標

世界の歴史の大きな枠組みと流れを，我が国の歴史と関連づけながら理解させ，文化の多様性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。

3 学習方法

- ① 教科書の写真や地図などを参考に基本事項の確認を行う。
- ② プリントを利用し，重要事項への関心を高める。
- ③ 具体例を増やし，興味関心を促す。
- ④ 教科書などの事象についての質問などに，身近な事から考えて答える。

4 学習計画

学期	月	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	4	序章 世界史への扉 第1章 オリентと地中海	・人類が自然環境に適応しながら進化し，農耕・牧畜を基礎とする諸文明を築き上げたことに気付く。 ・西アジア世界の地理的特質を把握し，オリент文明の盛衰，エーゲ文明，ギリシア ・ヘレニズム文明の特徴を理解する。 ・都市国家から大帝国に発展したローマ文明の特質を理解する。	・教科書に掲載されている図版や写真を適切に活用し，人類の誕生と進化の過程を把握できたか。 ・地図・資料を用いて，オリент世界・地中海世界を比較できているか。 ・オリент世界・地中海世界の特色を風土をふまえて理解できているか。
	5	第2章 アジア・アメリカの古代文明 第3章 内陸アジア世界・東アジア世界の形成	・南・東南アジアの地理的特質を把握し，インド文明の成立と発展，独自の宗教・社会制度など，南・東南アジア世界の形成過程を理解する。 ・中国文明の起源，殷・周の成立から秦・漢帝国の動向までを理解する。 ・先住民による南北アメリカ文明の形成とその特色を理解する。 ・内陸アジアの地理的特質を把握し，台頭した遊牧民とその国家の動向を，オアシス民の活動とともに理解する。 ・東アジアにおける北方遊牧民族の動向と，三国時代から魏晉南北朝という中国の分裂と動乱の時代を理解する。	・都市文明を特徴とするインダス文明について把握できたか。 ・インドに侵入したアーリア人が定住して諸国家を形成したことを把握できたか。 ・東アジアに成立した中華文明と内陸アジア世界の形成，国家の成立，遊牧民との抗争，唐の支配体制及びその制度を取り入れた日本などの国家形成の過程を理解できたか。
		第4章 イスラーム世界の形成と発展	・イスラーム世界成立の背景とその特質，アラブ人による発展とイスラーム帝国の形成を理解する。	・イスラーム教の成立とアラブ人の活動，イスラーム法に基づくイスラーム帝国の拡大について把握できたか。

	6	第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展	・イスラーム文明の特質とその影響，学問と文化活動の内容，イスラーム都市を中心としたネットワークの役割を理解する。 ・ヨーロッパの風土，ゲルマン人の移動，西ヨーロッパ世界の形成，西ヨーロッパ封建社会，カトリック教会と文化，ビザンツ帝国と東ヨーロッパ世界の形成，都市の発達と王権の伸長に関する資料を活用し，基本的知識を身に付ける。	・西ヨーロッパの形成，キリスト教と人びとの生活，国王の中央集権化による封建制の定着などについて把握できたか。
	7	第6章 内陸アジア世界・東アジア世界の展開	・契丹・女真・モンゴルを中心とした内陸アジアの動向がユーラシア諸地域の交流と再編に果たした役割について考察する。	・13世紀のモンゴルが広大な地域を支配する過程を知ることができたか。また，日本が元寇の危機を乗り越えたことを把握できたか。
第2学期	9	第7章 アジア諸地域の繁栄 第8章 近世ヨーロッパの形成	・16世紀～18世紀にかけてのアジア諸地域世界の社会や文化の特質について考察する。 ・ルネサンス，大航海時代，アメリカ大陸の古文明とその後の変貌，宗教改革の動向を理解する。 ・主権国家体制の特色，ヨーロッパ国際関係と商業覇権の推移，大西洋三角貿易の歴史的意義について考察する。	・16～18世紀の中国と東アジアの情勢を把握できたか。 ・新しいヨーロッパ文化としてのルネサンスを知ることができたか。アジア・中南米に物産を求めてヨーロッパ各国が進出したことを理解できたか。宗教改革については触れる程度とする。国王による絶対主義と重商主義による植民地化を理解できたか。
	10	第9章 近世ヨーロッパ世界の展開 第10章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	・17世紀～18世紀におけるヨーロッパ主権国家諸国の動向を理解すると共に，各国のとした重商主義政策とその特徴を理解する。 ・産業革命の背景，技術革新，交通革命の仕組みを理解し，なぜイギリスがその舞台となり繁栄したか考察する。 ・アメリカ革命，フランス革命でどのように市民社会が誕生したか理解する。	・イギリスから始まる産業革命と，ヨーロッパ及びアメリカの革命による国民国家形成という社会変革について理解できたか。
	11	第11章 欧米における近代国民国家の発展 第12章 アジア諸地域の動揺	・ウィーン体制の成立と，その体制下に広がった諸国の自由主義とナショナリズムの運動を理解する。 ・アメリカ合衆国の領土拡張と南北戦争以後の発展を理解する。 ・西アジアにおけるオスマン帝国支配の動揺と改革，アジア諸国の動向を理解する。	・ヨーロッパ各国によるアジア地域の植民地化，特に中国に対する利権争いの激化について把握できたか。 ・日本で江戸幕府が倒れ，明治維新が起こったこと，日本の朝鮮進出を理解できたか。
		第13章 帝国主義とアジアの民族運動	・ヨーロッパ諸国によるアジア・アフリカの植民地化をめ	・ヨーロッパ各国の帝国主義をまねた日本の帝国主義の進展を

	12		ぐる競合とアジア・アフリカの対応の歴史的意義を考察する。	把握できたか。
第 3 学 期	1	第14章 二つの世界大戦	・第一次世界大戦後の世界の変化について、第二次世界大戦へとつながった問題点を含め、多角的に考察する。 ・ファシズムの特徴について理解する。	・未曾有の戦禍を引き起こした2度の大戦が、どのような社会情勢の中でおきたのかを理解できたか。
	2	第15章 冷戦と第三世界の独立	・第二次世界大戦後、米ソを中心とした冷戦体制が成立し、東西両陣営に世界が分裂したことを理解する。	・大戦後の米ソ冷戦及び世界の政治情勢と植民地の独立について把握できたか。平和の大切さを理解できたか。
	3	第16章 現在の世界	・東欧諸国の民主化とソ連の社会主義体制の崩壊について、その歴史的意味を多角的に考察する。 ・世界で多発する地域紛争と同時多発テロ後の戦争、紛争解決や軍縮の試みを理解する。	・現代の国際問題、科学技術の発達と現代文明に関する資料を収集・選択・活用するとともに、追究し考察した過程や結果をレポートにまとめ、発表することができたか。

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す4つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に5段階の評定に総括します。なお、学習計画に示された「評価のポイント」は4つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 関心・意欲・態度	世界の歴史の大きな枠組みと流れに対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしたか。
2 思考・判断	世界の歴史から課題を見だし、文化の多様性と現代世界の特質を世界的視野に立って多面的・多角的に考察するとともに国際社会の変化を踏まえ公正に判断できたか。
3 資料活用の技能・表現	世界の歴史についての諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身に付けるとともに、追求し考察した過程や結果を適切に表現できたか。
4 知識・理解	世界の歴史についての基本的な事柄を、我が国の歴史と関連つけながら理解し、身に付けられたか。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	◎	◎	◎	学習活動への参加の態度
提出物	◎	◎	◎	◎	プリントなど
ノート	◎	○	○	○	年間5回提出
定期考査	○	◎	◎	◎	年間5回実施

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です)

平成27年度 数学Aのシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	数学A	単位数	3	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	東京書籍 新 数学A				
副教材等	ニューファースト 新 数学A				

2 学習目標

場合の数と確率, 整数の性質又は図形の性質について学習します。基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を養いましょう。数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用していくとよいでしょう。

3 学習方法

大切にしたいのは授業です。授業をしっかり聞いてノートを取り、授業中の演習の中で理解を深めて欲しいと思います。また、問題集などでの復習を通して、理解した内容を定着させましょう。ぜひ、苦勞して解けたときの喜びを味わってください。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	1章 場合の数と確率 1節 場合の数 1 集合 2 集合の要素の個数 3 和の法則と積の法則 4 順列 5 順列の利用 6 重複順列 7 円順列 8 組合せ 9 組合せの利用	- 部分集合 - 共通部分と和集合 - 空集合と全体集合 - 集合の要素の個数 - 和の法則・積の法則 - 順列 - 重複順列 - 円順列 - 組合せ	部分集合, 全体集合, 補集合, 共通部分, 和集合などの集合の表し方, 用語, 記号を, 図を用いて理解し, 記号を使って表すことができる。集合の要素の個数を求めることができる。 和の法則や積の法則について, 具体例を用いて理解し, 場合の数を効率よく求めることができる。 順列の意味を理解し, 公式を用いて基本的な順列の総数を求めることができる。 条件のついた順列の総数を求めることができる。 重複順列・円順列の意味を理解し, 総数を求めることができる。 組合せの意味や性質を理解し, 公式を用いて基本的な組合せの総数を求めることができる。組合せの考え方をいろいろな場面に利用して, 組合せの総数を求めることができる。
第2学期	2節 確率 1 確率の意味 2 確率の計算 3 独立な試行の確率 4 反復試行の確率 5 条件つき確率 2章 図形の性質 1節 三角形の性質 1 三角形と比 2 三角形の重心・外心・内心 3 角の二等分線と線分の比 2節 円の性質 1 円周角の定理 2 円に内接する四角形	- 試行と事象 - 確率の計算 - 独立な試行 - 反復試行 - 排反事象の確率 - 余事象の確率 - 比の定理 - 中点連結定理 - 重心・外心・内心 - 円周角の定理 - 円の接線 - 方べきの定理	試行と事象, 事象の確率について学び, 確率の意味を知り, 基本的な確率を求めることができる。 場合の数をもとに, 確率を求めることができる。また, 確率の加法定理を理解し, 排反事象に分けて確率を求めることができる。余事象を利用して求めることができる。 独立な試行の確率が積の法則により求められことを理解し, 簡単な独立な試行の確率を求めることができる。 反復試行について理解し, 簡単な場合の反復試行の確率を求めることができる。 条件つき確率の意味を理解する。 三角形と比の定理と中点連結定理を理解し, それらを利用して, 線分の長さを求めることができる。 三角形の中線, 辺の垂直二等分線, 角の二等分線の性質を考察し, 三角形の重心, 外心, 内心の性質を利用して, 線分の長さや角の大きさを求めることができる。 三角形の角の二等分線と線分の比の定理を理解しそれを用いることができる。 円周角の定理を理解し, それを利用して角の大きさを求めることができる。また, 円周角の定理の逆を利用して, 4点

	3 円と直線 4 接線と弦のつくる角 5 方べきの定理 6 2つの円	・ 2つの円	が同一円周上にあるかどうかを判断できる。 円に内接する四角形の定理を理解し、それを利用して角の大きさを求めることができる。 円の接線の性質、接線の長さについて理解し、それらを利用して、接線の長さや三角形の辺の長さを求めることができる。 接線と弦のつくる角の定理を理解し、それを利用して、角の大きさを求めることができる。 円と2本の直線がつくる線分の長さの関係を考察し、方べきの定理が成り立つことを理解し、図形に対する能力をさらに伸ばす。 2つの円の位置関係と、2つの円に共通する接線の数について考察する。
第3学期	3節 作図 1 基本の作図 2 いろいろな作図 3章 整数の性質 1節 約数と倍数 1 約数と倍数 2 最大公約数と最小公倍数	・ 垂直二等分線 ・ 垂線 ・ 角の二等分線 ・ 約数・倍数・素数 ・ 素因数分解 ・ 最大公約数・最小公倍数	垂直二等分線、垂線、角の二等分線の作図方法を理解し、その作図ができる。 約数、倍数、素数、素因数分解などの整数に関する基本的概念について理解し、約数、倍数を求めたり、素因数分解したりすることができる。 最大公約数、最小公倍数の求め方を理解し、これを 利用して、問題を解決することができる。また、最大公約数と最小公倍数の関係を理解する。

5 学習評価

(1) 評価の観点及び内容について

以下に示す四つの観点に基づき、学習内容のまとまりごとに評価を行い、学年末に 5段階の評定に総括します。

なお、学習計画に示された「評価のポイント」は四つの観点と結び付いた具体的な評価基準と考えます。

評価の観点及び内容	
1 関心・意欲・態度	「身の回りの数学」に関する数理的な諸概念に興味・関心をもち、それらを意欲的に探究するとともに、数学を活用しようとする。
2 数学的な見方や考え方	「身の回りの数学」におけるいろいろな事象について、数学的にとらえて論理的に考察したり、表現できる。
3 数学的な技能	「身の回りの数学」について事象を数量や図形を用いて適切に処理できる。
4 知識・理解	「身の回りの数学」に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けられる。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法	観点	観点 1	観点 2	観点 3	観点 4	備考
学習状況の観察		◎	◎	○	○	授業中の態度。
提出物		◎	○	◎	◎	プリントや問題集。再提出あり。
ノート		◎	○	○	○	再提出あり。
定期考査		○	◎	◎	◎	年5回考査。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)

平成27年度 化学基礎 のシラバス

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	化学基礎	単位数	3	履修学年・区分	1，2学年
使用する教科書	高校化学基礎（実教出版）				
副教材等	アクセスノート化学基礎（実教出版）				

2 学習目標

化学基礎では中学校の理科を基本に，さらに進んだ化学的な方法で自然の事物・現象に関する問題を取り扱い，基本的な概念や原理・法則を理解するとともに，探究の過程を通して，化学の方法を習得し，科学的な自然観を身につけることを目標とします。

3 学習方法

- ① TV番組や新聞記事にも化学の内容を扱ったものは数多く見られます。興味ある分野は自分から積極的に触れていきましょう。
- ② ノートはただ板書を写すだけでなく，自分に分かりやすいようにまとめましょう。
- ③ 授業最初の小テストを通して，基礎学力を身につけましょう。
- ④ 授業の復習を問題集やプリントを使用して適宜行い，知識の定着を図りましょう。
- ⑤ 実験・観察はその目的や方法をきちんと理解した上で臨みましょう。また，実験結果から考察を導くことも忘れないように。

4 学習計画

学期	学習内容（单元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	序 化学と人間生活 1 物質の構成 1節 物質の探究 2節 物質の構成粒子	純物質と混合物 混合物の分離 単体と元素 物質の三態と状態変化 粒子の熱運動 原子 電子配置と周期表	・物質の分離法を理解する。 ・物質の種類について純物質・混合物，単体・化合物という観点から理解する。 ・状態変化と化学変化の違いを理解する。 ・原子核や陽子といった原子の基本的な構成要素を理解する。
第2学期	2 物質と化学結合 1節 物質と化学結合 2節 物質の利用	イオン イオン結合とイオン結晶 共有結合と分子 極性と分子間にはたらく力 金属結合と金属 結晶の分類とその性質 金属の利用 高分子化合物とその性質	・物質の構成単位としての原子・分子・イオン等の構造を理解している。 ・日々の生活での金属の利用例を理解する。

	3 物質の変化 1 節 物質と化学反応式	原子量・分子量・式量 物質の量 化学変化と化学反応式 化学反応の量的な関係	・原子量，分子量，式量について理解する。 ・化学反応の際の反応物と生成物の量的な関係を化学反応式を元に考えられる。
第3学期	2 節 酸と塩基 3 節 酸化還元反応	酸と塩基 酸・塩基の価数と強弱 水素イオン濃度とpH 中和反応と量的な関係 中和反応と塩 酸化と還元 酸化数と酸化剤・還元剤 酸化剤と還元剤の反応 金属のイオン化傾向 電池 電気分解とその利用	・酸と塩基についてそれぞれの特徴を理解する。 ・中和反応で水と塩が生成されることを理解する。 ・酸化反応と還元反応とを正確に理解している。 ・酸化還元を利用した電池や電気分解の仕組みを理解する。

5 学習評価

(1) 評価の観点および内容について

以下に示す4つの観点に基づき，学習内容のまとまりごとに評価を行い，学年末に5段階の評定に総括します。なお，学習計画に示された「評価のポイント」は4つの観点と結びついた具体的な評価基準と考えます。

評価の観点および内容	
1 関心・意欲・態度	化学の現象に関心や探求心をもち，意欲的にそれを探究するとともに，科学的態度を身に付けている。
2 思考・判断・表現	化学の現象の中に問題を見だし，観察，実験などを行うとともに，事実を実証的・論理的に考えたり，分析的・総合的に考察したりして，問題を解決し，事実に基づいて科学的に判断する。
3 観察・実験の技能	化学の現象に関する観察，実験の技能を習得するとともに，それらを科学的に探究する方法を身に付け，観察，実験の過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現する。
4 知識・理解	観察，実験などを通して化学の現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し，知識を身に付けている。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法 観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備考
学習状況の観察	◎	○	◎	○	授業中の態度。
提出物	○	○	◎	○	プリントや問題集。
ノート	◎	○	○	○	年5回提出。再提出あり。
定期考査	○	◎	○	◎	年5回考査。

(◎は観点の中で特に重視するという意味です。)

平成27年度 保健のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	保 健	単位数	1	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	最新高等保健体育 (大修館書店出版)				
副教材等	最新高等保健体育ノート (大修館書店出版)				

2 学習目標

人は生涯の各段階で、さまざまな健康問題に出会います。まず、思春期である今の心や体を理解し、適切に行動できるようにすることが目標です。また、中高年期においていずれ出会うであろう健康課題や、それぞれの段階で必要となる保健・医療機関の活用・自然環境や社会の制度・食品の問題・労働と健康について学び、生涯を通じた健康を理解することを第2の目標とします。

3 学習方法

社会の大きな変化の中で、健康や安全の問題は多様化しています。①新聞や雑誌、テレビ番組やニュースで、保健（健康問題も含む）の内容を扱ったものは意識的に見るように心がけましょう。②健康問題とその対策について学びます。③実習を通して実際の生活の中で使うことがあるかも知れないことをしっかり身に付けましょう。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	生涯を通じる健康 1 思春期と健康 2 性への関心・欲求と性行動の選択 3 妊娠・出産と健康 4 避妊法の選択と人工妊娠中絶 5 結婚生活と健康	- 男女の生殖器の発達 - 女性の性周期 - 男女の違い (性差) - 受精, 妊娠, 出産 - 家族計画と正しい避妊法 - 結婚	- 女性の性周期 (月経・排卵) や男性の射精などの性機能を理解することができたか。 - 性意識に関する男女差を理解できたか。 - 受精・妊娠・出産の過程を説明できたか。 - 家族計画の意義や方法を理解できたか。 - 健康な結婚生活を考えることができたか。
第2学期	6 中高年期の健康 7 医薬品とその活用 8 医療サービスとその活用 9 保健サービスとその活用 10 さまざまな保健活動や対策 社会生活と健康 1 大気汚染と健康 2 水質汚濁, 土壌汚染と健康 3 環境汚染を防ぐ取り組み	- 老化, 骨粗しょう症 - 医薬品の正しい使用法 - 医療保険のしくみ - 保健所と保健センター - 民間・国際機関の保健活動 - 大気汚染の原因 - 水質汚濁, 土壌汚染の原因 - 環境汚染の特徴と対策	- 加齢による変化を理解することができたか。 - 医薬品の正しい使用法が理解できたか。 - 医療保険のしくみを理解できたか。 - 医師に対し受け身でなく積極的に情報を得て判断する努力が必要なことを理解できたか。 - 民間機関・国際機関などの保健活動や対策について理解できたか。 - 汚染源や健康被害を及ぼす条件を説明できたか。 - 環境問題を積極的に調べて、自分にできることを実践しようとしたか。
第3学期	4 ごみの処理と上下水道の整備 5 食品の安全を守る活動 6 働くことと健康 7 働く人の健康づくり	- 循環型社会 - 食中毒予防 - 労働災害 - メンタルヘルスケア	- 日常生活の中で実践できているか。 - 職業病や労働災害を防ぐために、雇用者及び働く人自身がどのような取り組みが必要なのかを理解できたか。

5 学習評価

評価は、観点1「関心・意欲・態度」、観点2「思考・判断」、観点3「知識・理解」という3つの観点に基づいて行います。評価方法は、次のとおりです。

(1) 評価の観点及び内容について

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 関心・意欲・態度	生涯を通じる健康，社会生活と健康について関心を持ち，意欲的に学習に取り組もうとする。
2 思考・判断	生涯を通じる健康，社会生活と健康について，課題の解決を目指して総合的に考え，判断し，それらを表している。
3 知識・理解	生涯を通じる健康，社会生活と健康について，課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	備 考
学習状況の観察	◎	◎	○	授業中の態度，取り組み。
ノート	◎	○	◎	年間3回提出
課題・宿題	◎	○	◎	毎時間
定期考査	○	◎	◎	年間3回実施

(◎は，観点の中で特に重視するという意味です。)

平成27年度 保健のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	保 健	単位数	1	履修学年・区分	第1学年
使用する教科書	最新高等保健体育 (大修館書店出版)				
副教材等	最新高等保健体育ノート (大修館書店出版)				

2 学習目標

新たな健康問題の登場とともに、健康のとらえ方や健康を守る活動も変化してきています。自分たちだけではなく、すべての人々が健康の保持増進を実現するために必要なことです。 保健では、個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育てることを目標とします。

3 学習方法

社会の大きな変化の中で、健康や安全の問題は多様化しています。①新聞や雑誌、テレビ番組やニュースで、保健（健康問題も含む）の内容を扱ったものは意識的に見るように心がけましょう。②健康問題とその対策について学びます。教科書・ノートを参考に授業内容の予習・復習をしっかりと行いましょう。③実習を通して実際の生活の中で使うことがあるかも知れないことをしっかり身に付けましょう。

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	現代社会と健康 1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり 4 生活習慣病とその予防 5 食事と健康 6 運動・休養と健康 7 喫煙と健康	- WHO - ヘルスプロモーション - 平均寿命, 平均余命 - 予防法 - 生活習慣病 5大栄養素 - 有酸素運動 - 受動喫煙	- WHO憲章を理解することができたか。 - 健康にはどのような要因がかかわっているのかを説明できるようになったか。 - 早期発見, 早期治療と今後の生活習慣が重要であることを理解できたか。 - 自分の食生活を振り返ることができたか。 - 運動及び休養が健康の保持増進にとって重要であることが理解できたか。 - 健康問題が, 個人社会レベルで説明できたか。
第2学期	8 飲酒と健康 9 薬物乱用と健康 10 感染症とその予防 11 性感染症・エイズとその予防 12 欲求と適応機制 13 心身の相関とストレス 14 心の健康のために	- 飲酒の問題点 - 薬物乱用 - 新しい感染症 - HIV, AIDS について - さまざまな適応機制 - 心身相関 - ストレスへの対処法	- 薬物の誘惑に, “絶対にNO!” と言える自分が大切であることが理解できたか。 - 性感染症, エイズについて個人が具体的な対策を考えられるようになったか。 - 欲求について理解し, 様々な適応機制を説明できるようになったか。 - 心と体の働きが相互に影響し合う関係であることを知り, ストレスへの対処方法を理解できたか。
第3学期	15 交通事故の現状と要因 16 交通事故を防ぐために 17 応急手当の意義とその基本 18 日常的な応急手当 19 心肺蘇生法の原理とおこない方	- 事故の原因 - 安全な交通社会 - RICEについて - 心肺蘇生法の実習	- 怪我や熱中症の応急手当の手順や方法とその予防を理解することができたか。 - 心肺蘇生法を理解し, できるようになったか。 気道確保→呼吸観察→人工呼吸→胸骨圧迫→AEDの正しい理解と技術・手順を身に付けることができたか。

5 学習評価

評価は、観点1「関心・意欲・態度」、観点2「思考・判断」、観点3「知識・理解」という3つの観点に基づいて行います。評価方法は、次のとおりです。

(1) 評価の観点及び内容について

評 価 の 観 点 及 び 内 容	
1 関心・意欲・態度	現代社会と健康について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。
2 思考・判断	現代社会と健康について、課題の解決を目指して総合的に考え、判断し、それらを表している。
3 知識・理解	現代社会と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	備 考
学習状況の観察	◎	◎	○	授業中の態度，取り組み。
ノート	◎	○	◎	年間3回提出
課題・宿題	◎	○	◎	毎時間
定期考査	○	◎	◎	年間3回実施

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です。)

平成27年度 体育の学習のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	体 育	単位数	3	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	なし				
副教材等	なし				

2 学習目標

現代社会におけるスポーツの意義や必要性を理解し、生涯にわたり自らが運動を实践できる能力を身に付ける。また、正しい服装で安全に配慮し、時間・ルールを守り授業に取り組むことや各領域・各種目の特性を学び、協力・責任を果たし、運動を楽しむことができることを目標とする。
--

3 学習方法

様々な運動を通して、体を動かすことの楽しさを味わうとともに、周囲と協力しながら技能・体力を向上させる。また、自分の体の特徴を知り、どこが強いのか、どこが弱いのかまず把握し、自分に合ったトレーニングを組んで実践することができるようにする。体育理論から科学的に学び、体力向上や健康について意識し、実践する能力を養う。
--

4 学習計画

学期	学習内容(単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	○集団行動 ○体力づくり運動 ○体育理論 ○選択① サッカー, バスケットボール, 卓球, バドミントン ○水泳	①姿勢②方向変換③集合、整とん、番号、 解散④列の増減⑤開列⑥行進⑦礼 ・体ほぐしの運動、体力を高める運動 ・体育理論 ・基本技術の習得 ・ゲーム ①クロール②平泳ぎ③背泳ぎ④バタフライ⑤横泳ぎ	・基本動作(姿勢・方向転換・集合・整頓・番号・列の増減)ができたか。 ・持久性、スピード、筋力の向上を目指し取り組むことができたか。 ・自己の目標を設定し、その目標に取り組んだり、チーム内で協力したりできたか。 ・より長く、より速く泳げるように、自分の能力に応じて取り組むことができたか。
第2学期	○体力づくり運動 ○体育理論 柔道, ダンス ○選択②, ③ バレーボール, テニス, 卓球, バドミントン, ソフトボール, バスケットボール, サッカー, 持久走	・体力を高める運動 ・体育理論 ・柔道(受身・寝技・立ち技) ・ダンス(フォークダンス, 創作ダンス) ・基本技術の習得 ・ゲーム	・礼儀作法・技の習得ができたか。 ・グループでダンスを創作し、発表できたか。 ・サービス、パス、レシーブ、スパイクができたか。 ・キャッチボール、バレーボールができたか。 ・サービス、スマッシュ、ボレーができたか。 ・シングルス及びダブルスのゲームができたか。 ・パス、キャッチ、ドリブル、シュートができたか。 ・パス、トラップ、ドリブル、シュートができたか。 ・ルールを理解し、ゲームができたか。
第3学期	○体育理論 ○選択④, ⑤ バレーボール, テニス, 卓球, バドミントン, ソフトボール, バスケットボール, サッカー, 持久走	・体育理論 ・基本技術の習得 ・種目毎に練習計画を立て、協力して準備やゲームを行う。	・基本技術の習得ができたか。 ・チームや個人で作戦を立て、協力してゲームに取り組むことができたか。 ・ルールを理解し、自分達でゲームを展開、運営できたか。 ・習得した基本技術をゲームで活用できたか。

5 学習評価

評価は、観点1「関心・意欲・態度」、観点2「思考・判断」、観点3「運動の技能」、観点4「知識・理解」という4つの観点に基づいて行います。評価方法は、次のとおりです。

(1) 評価の観点及び内容について

評 価 の 観 点 及 び 内 容

1 関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を持ち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。
2 思考・判断	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。
3 運動の技能	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。
4 知識・理解	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習や発表の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方についての具体的な方法、スポーツの歴史、文化的特性や現代のスポーツの特徴、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。

(2) 「評価の観点」の評価方法について

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	◎	○	○	授業中の態度、取り組み。準備・片付け、協力等。
実技	◎	○	◎	◎	練習やゲーム等。
技能テスト	○	◎	◎	◎	種目や学期毎で実施。

(◎は、観点の中で特に重視するという意味です。)

平成27年度 音楽Ⅱの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	音楽Ⅱ	単位数	2	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	ON! 2 音楽之友社				
副教材等					

2 学習目標

- 1 歌唱を通して，旋律や歌詞の美しさ，ハーモニーの響きを味わうことができる。
- 2 器楽を通して，楽器の演奏技術を高め，合奏で協調性を養い，演奏する楽しさを味わう。
- 3 鑑賞を通して，様々な分野の音楽を味わい，豊かな心を育てる。
- 4 楽典を通して，音楽の基礎知識を学び，理解を深める。

3 学習方法

- 1 歌唱においては，季節の歌や外国語の歌など様々な分野を取り入れ，曲の特徴を知り，また合唱などで美しい響きを表現します。
- 2 器楽においては，ギターで楽器の構造を知り，奏法や指使い，響きについて学びます。
- 3 鑑賞においては，様々な分野の音楽を鑑賞し，感想記録を通して，興味関心を深めます。
- 4 実技においては，学習記録表を用いて，個人の進捗状況を把握します。

4 学習計画

学期	学習内容（単元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	・歌唱・・・日本唱歌 ・器楽・・・ギター（音階） ・鑑賞・・・西洋音楽 ・楽典・・・聴音・音符休符	・季節の歌を歌い，発声に留意しながら日本唱歌を味わう。 ・ギターの構造を知る。音階の指使いを知る。 ・古典派の音楽を鑑賞する。ベートーヴェンを知る。 ・聴音は1オクターブの単音を聴き取り，楽譜に書く。音符休符の基礎知識を知る。	・日本唱歌の歌唱試験を行う。（歌詞把握・声量・音程など） ・音階試験を行う。（指使い・音色など） ・鑑賞の感想提出・ベートーヴェンについてまとめる。 ・楽典・聴音の小テストを行う。（聴音は1オクターブ単音）
第2学期	・歌唱・・・季節の歌・外国語 ・器楽・・・ギター（コード）	・「里の秋」「冬景色」などを歌い，歌詞の美しさや季節感を味わう。また三部合唱でハーモニーの美しさを楽しむ。 ・英語「Joyful, Joyful」を通して，歌詞の意味やリズムを味わい，親しみを持つ。 ・ギターのコードの押さえ方を覚える。コードの構造について知る。簡単なコード演奏をして，和音の響きを味わう。	・単旋律と合唱の歌唱試験をグループで行う。（声量・音程・表現） ・コードの押さえ方の試験を、曲演奏を通して行う。

	- 鑑賞・日本音楽 - 楽典・聴音・楽語	- 長唄や歌舞伎の鑑賞を通して、その意味や、伝統音楽を味わう。 - 聴音は単音と2和音を聴き取り、楽譜の書き方を学ぶ。楽語を覚える。	- 鑑賞の感想提出。伝統音楽をまとめ、提出。 - 楽典・聴音小テストを行う。 (聴音は1オクターブ単音と2和音)
第3学期	- 歌唱・季節の歌・外国語 - 器楽・ギター (まとめ) - 鑑賞・バレエ音楽 - 楽典・聴音・音階 - まとめ	- 季節の歌の合唱や、イタリア語の歌を歌い、旋律やリズムを味わう。外国語は発音に留意する。 - ギターは個人の進度に応じて選曲し、練習する。グループセッションを行う。 - バレエを鑑賞する。 - 聴音はリズム聴音の書き方を知る(四分音符・八分音符)。長調・短調の音階を覚える。 - 三部合唱でハーモニーの美しさを感じる。	- 発音や発声に留意し、イタリア語歌唱試験を行う。(発声・発音・音程) - 選曲に応じて、グループ発表会を行う。 - 鑑賞の感想を提出。バレエの歴史についてまとめる。 - 楽典・聴音の小テストを行う。 (聴音は1オクターブ単音と2和音、リズム聴音)

5 学習評価

- 歌唱・器楽・楽典は学期ごとに試験を行います(個人・グループ評価)。
- 鑑賞の感想、音楽史まとめ、実技における学習の記録で評価します。

評価は、観点1「音楽表現の技能」観点2「音楽表現の創意工夫」観点3「鑑賞の能力」観点4「音楽への関心・意欲・態度」の4つの観点に基づいて行います。日々の授業に取り組む姿勢も大切です。

実技試験においても、試験だけではなく、そこまでの練習過程も重視します。

評価方法は次の通りです。

評価方法／観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
実技試験	◎	◎	○	◎	歌唱・器楽の試験を行う。
楽典試験	○	○	◎	◎	楽典・聴音・音楽史等試験を行う
提出物	◎	◎	◎	○	鑑賞の感想・実技練習記録・楽典音楽史プリント

(◎＝観点の中で特に重視するもの)

平成27年度 コミュニケーション英語Ⅱの学習（シラバス）

1 科目名，単位数，履修学年，履修区分，使用する教科書

科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	4	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	VISTA English Communication Ⅱ（三省堂）				
副教材等	プレップイングリッシュ【改訂版】（旺文社）				

2 学習目標

- ◎1年生のときと同様に，下の4点を目標に学習します。
- ・「ボキャブラリー」を増やそう。
 - ・基本的な英文法をしっかりと身につけよう。
 - ・簡単な英語を使って，コミュニケーションに挑戦しよう。
 - ・外国の文化に興味や関心を持とう。

3 学習方法

- ◎英語学習にマジックはありません。「地道にコツコツ，すべきことを続ける」，これこそ最高の学習方法です。では，「すべきこと」とはなんでしょう？答えは，下記のとおりです。
- ① 高校での学習の基本は授業です。先生の話をよく聞く。大事なところを確実にノートに書きとる。辞書をたくさん使う。宿題をしっかりとやる。課題をきちんと提出する。これらのことを着実にこなせば，どんどん英語の力はつきます。
 - ② 次の授業に備えての予習や，その日学習したことの復習は，英語学習に不可欠です。毎日机に向かい，教科書を開く。その習慣を身につけましょう。
 - ③ 定期考査の準備は，時間をかけて精一杯やりましょう。テスト対策は，学習したことを確実に身につけるための最高の機会です。しっかりと準備すれば高得点が取れます。高得点は自信を生みます。「準備→高得点→自信」，このサイクルを手に入れましょう。

4 学習計画

学期	学習内容（单元名）	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	1年生の復習	1年生で学習した，基礎的なボキャブラリーと文法を再確認する。	・基本的な単語や熟語は身につけているか。 ・主に動詞の用法に関して，基礎的な文法事項は身につけているか。
	L1 World Breakfasts ベトナム，ブラジル，ドイツの朝食に見られる文化を考えよう。 プレップイングリッシュ	疑問詞とif節の用法を理解する。 代名詞 be 動詞	・本文の内容は理解できたか。 ・疑問詞を用いて表現活動を行うことができるか。 ・if節とその用法について理解できたか。 ・新出言語材料は身についたか。 ・代名詞を覚え，使い分けることができたか。 ・be 動詞を正しく使って表現できたか。
	L2 The Emerald Isle アイルランドの文化・郷土について考えよう。	比較級・最上級の用法について理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・比較級・最上級を用いた表現をすることができるか。 ・新出言語材料は身についたか。
	L3 Sakana-kun クニマスの再発見に関する英文を読み取ろう。	名詞を修飾する現在分詞・過去分詞の用法を理解する。	・本文の内容は理解できたか。 ・現在分詞・過去分詞を用いて名詞を修飾することはできるか。 ・新出言語材料は身についたか。

第 2 学 期	L4 Nobel Prize Episodes ノーベル賞にまつわる 英文を読み、背景やエピソードを理解しよう。 プレップイングリッシュ	知覚動詞や tell 人 to do の 表現を理解する。 前置詞 There is (are)～ 一般動詞	・本文の内容は理解できたか。 ・知覚動詞の用法を理解できたか。 ・tell 人 to do を用いた表現をすることができるか。 ・新出言語材料は身についたか。 ・前置詞を使い分けて使用することができるか。 ・There is (are)の表現を正しく使うことができるか。 ・一般動詞の単語は身についたか。 ・疑問文・否定文・3単元の s を用いて表現することができるか。
第 3 学 期	L5 Flowers in the Tomb ツタンカーメンの墓を 発見したハワード・カー ターの話を読み、理解を 深めよう。 プレップイングリッシュ	使役動詞と関係代名詞 what の用法を理解する。 命令文 過去形 疑問詞	・本文の内容は理解できたか。 ・使役動詞の意味と用法を理解できたか。 ・関係代名詞whatを用いた表現をすることができるか。 ・新出言語材料は身についたか。 ・命令文の意味と用法を理解することができたか。 ・過去形の意味と用法を理解することができたか。 ・それぞれの疑問詞の意味を理解し、適切に表現できるか。

5 学習評価

評価は1年生のときとまったく同様に、観点1「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」、観点2「外国語表現の能力」、観点3「外国語理解の能力」、観点4「言語や文化についての知識・理解」という4つの観点に基づいて行います。評価方法は、次のとおりです。

評価方法\観点	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	○	○	○	学習活動への参加の態度
小テスト	○	◎	◎	◎	単元確認、語彙、音読テスト等
提出物	◎	○	○	○	課題プリント、ノート、ワークブック等
定期考査	○	◎	◎	◎	年間5回実施

(◎＝観点の中で特に重視するもの)

評価をする際に最も重視されるのは、2年生でも定期考査の結果です。年に5回実施される定期考査で何点を取ることができたのか。まず、それが大切です。

また、君たちの毎日の学習態度にも注目し、考査の点数と総合して上記の4つの観点に基づき評価を行います。学習態度については、具体的に以下の項目が成績評価の重要な資料になります。

★授業に取り組む姿勢

きちんとした態度で話を聞いているか、ノートをしっかり取っているか、活動には積極的に取り組んでいるかなど。

★提出物 きちんと仕上げて、期日までに提出できているか。

★小テスト 学習内容の確実な理解のためにも、毎回高得点を目指しましょう。

◎要するに、「テストの得点＋普段の努力」が大切ということです。

平成 27 年度 家庭総合のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	家庭総合	単位数	2	履修学年・区分	2 学年 (1・2 学年各 2 単位の分割履修)
使用する教科書	家庭総合～ともに生きる 明日をつくる～ (教育図書)				
副教材等	生活ガイドブック データ&グラフ (教育図書)				

2 学習目標

・身近な生活の中から課題を見だし, 解決に向けて主体的に取り組める能力を養います。 ・家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身につけます。

3 学習方法

①教科書や補助資料から基礎的知識を学ぶ。 ②調理実習や被服製作実習を通し, 基礎的技術を身につける。 ③習得した基礎的な知識・技術を実験や体験を通し, 科学的・理論的に学ぶ。 ④視聴覚教材や統計資料・新聞等から身近な課題を考える。
--

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第 1 学期	《単元》食生活 ①なぜ食べるの？ ②何を食べるの？ ③食品の選択と取り扱い ④献立づくりと調理 ⑤食と暮らしのかかわりを 知ろう ※家庭科技術検定食物調理 4 級受検対策 (期末考査)	《ねらい》 豊かな食生活を実現させるため, 栄養・食品・調理などについて科学的に理解させ, 必要な技術を習得する。また, 食文化の関心を深めるとともに, 環境に配慮した食生活に実現を目指す。 《具体的活動》 ①講義 ②講義 ③調べ学習 ④実習 ⑤講義 ※実技・講義	①健康によい食習慣を身に付けることに関心を持つことができたか。 ②五大栄養素の働きとその食品について理解することができたか。 ③食品に関する正しい知識を身に付け, 安全な食生活を実践しようとすることができたか。 ④食事摂取基準を理解し, バランスのよい一日の献立を考えることができたか。また, 調理技術の習得, 食の安全と衛生への関心を持ち, 実習に取り組むことができたか。 ⑤生活者として世界的な食糧事情を理解し, 環境に配慮した食の意識を持つことができたか。
第 2 学期	《単元》人の一生と家族 ①人生ってなんだろう ②青年期とはどんな時期？ ③家族ってなんだろう？ ④家族と社会とのかかわりは？ 《単元》高齢者とともに ①社会はどう高齢化するの だろう？ ②高齢者ってどういう時期 ？ ③高齢期の生活を支えるし くみは？ ④高齢者の介護を学ぼう 《単元》共生社会 ①共生ってなんだろう？	《ねらい》 人の一生を生涯発達の視点でとらえ, 家族・家庭の意義, 社会とのつながりを理解させる。 《具体的活動》 ①講義 ②実習 ③調べ学習・講義 《ねらい》 高齢者に対する正しい認識から, 介護の基礎など体験的な学びと役割を知る。 《具体的活動》 ①講義・ディベート ②講義・実習 ③調べ学習・講義 《ねらい》 ノーマライゼーションの考え方を学び, 人々がどう支え合いか知る。 《具体的活動》 ①調べ学習・講義	①人の一生を考え, 自分のライフコースを描けたか。 ②人生における青年期の重要性について理解できたか。 ③家族の役割を理解し, 家族のあり方について考えることができたか。 ④家族に関する法律を理解し, 将来の設計に役立てようとすることができたか。 ①日本や世界で高齢化が進む仕組みを理解できたか。 ②高齢期の特徴を理解し, 青年期との違いについて考えることができるか。 ③高齢者に対する実態や課題を考え, 高齢社会を理解することができたか。 ④介護の目的と方法を理解することができたか。 ①ノーマライゼーションの考えを知り, 様々な人と共生できる社会を築こうとしているか。

	《单元》保育 ①赤ちゃんはなぜかわいい？ ②子どもはどう育つのだろう？ ③親になるとはどういうことか ④子育てを支える社会のしくみは？ (期末考査)	《ねらい》 子どもの発達、保育、福祉をと おして、健全な発達を支える親 や社会の役割を理解させると ともに、保育への関心を深める 。 《具体的活動》 ①調べ学習 ②講義・実習 ③調べ学習・講義 ④調べ学習・講義	①命の尊さから出産を見つめ、保育 に関することに理解を深めること ができたか。 ②子どもの成長過程の理解を深め、 知識を生かそうとすることができ たか。 ③子どもに関心を持ち、親の役割と 社会の関わりについて理解するこ とができたか。 ④子どもの福祉について、少子高齢 社会の側面から理解することがで きたか。
第 3 学 期	《单元》環境 ①生活を見つめてみよう ②環境のためにできること って？ 《单元》ホームプロジェクト (期末考査)	《ねらい》 家庭経済や消費生活の基礎的 な知識を習得し、持続可能な社 会を目指した消費行動へとつ なげる。 《具体的活動》 ①講義・ディベート ②調べ学習・講義 《ねらい》 二年間の学習から課題を見つ け生活に生かす。 《具体的活動》 問題解決学習	①くらしの中にある環境問題に対 して、自分のこととして取り組むこ とができたか。 ②自分にできることを明確にし、環 境問題を理解することができたか。 ①生活課題を主体的に見出し、課題 解決に向けて、学習によって習得し た知識を適切に活用できたか。

5 学習評価

観点1	関心・意欲・態度	家庭や地域の生活に関心をもち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけているか。
観点2	思考・判断・表現	家庭や地域の生活について見直し、課題を見付け、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけているか。
観点3	技能	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけているか。
観点4	知識・理解	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけているか。

観点 評価方法	観点1	観点2	観点3	観点4	備 考
学習状況の観察	◎	○	○	○	学習活動への参加態度
テスト	○	◎	○	◎	学期末考査等
提出物	◎	◎	○	○	課題等
実技	◎	○	◎	○	調理実習等

(◎＝観点の中で特に重視するもの)

以上を総合的に判断し、評価します。

平成27年度 ビジネス基礎のシラバス

1 科目名, 単位数, 履修学年, 履修区分, 使用する教科書

科目名	ビジネス基礎	単位数	2	履修学年・区分	第2学年
使用する教科書	ビジネス基礎 新訂版 (実況出版)				
副教材等					

2 学習目標

- ①ビジネス用語を覚えましょう。
- ②身近な事柄に結びつけて、ビジネスを理解しましょう。
- ③全国商業高等学校協会主催珠算・電卓実務検定試験を受験し、資格を取得しましょう。
- ④世の中の情報やビジネスへの関心を高めましょう。

3 学習方法

- ①板書事項をノートにまとめます。
- ②練習問題を解き、授業内容の理解を深めます。
- ③電卓学習では、正確で速い計算能力を身につけるよう、繰り返し練習します。
- ④新聞やインターネットからの情報を活用し、ビジネスへの関心を高めます。

4 学習計画

学期	学習内容 (単元名)	学習事項・学習活動	評価のポイント
第1学期	第1章 商業の学習ガイダンス ①商業科目を学ぶ意味, 心構え	・ビジネスで必要とされる能力	・ビジネス社会を生き抜く為に必要な資質について理解できたか。
	第2章 経済のしくみとビジネス ①経済のしくみとビジネス	・有形財, 無形財, 経済主体等	・経済の基本を理解できたか。
	②ビジネスのことを学ぼう	・身近な企業と結びつけ, ビジネスの種類・活動を知る ・消費者ニーズ	・ビジネスの種類・活動を理解し, 企業例を挙げることができたか。 ・消費者ニーズの変化に気づくことができたか。
	③ビジネスの役割, ビジネスの発展	・国際化, 情報化, サービス経済化	・経済を取り巻く環境の変化やそれに伴う課題について, 理解できたか。
	④ビジネスの発展がもたらした課題 <u>第1学期期末考査</u>	・環境問題等 ○プリントを使って復習	・問題点や課題を理解できたか。 ・ <u>ノートの提出。</u>
第2学期	第4章 ビジネスと売買取引	①電卓実務検定試験3級の学習 ・普通計算	・電卓が正確に使えたか。 ・速く, 正確な計算ができたか。
	第4章 ビジネスと売買取引	②電卓実務検定試験3級の学習 ・普通計算 ・ビジネス計算	・速く, 正確な計算ができるか。 ・ビジネスに関する計算が理解できたか。
	第2章 経済のしくみとビジネス ⑤ビジネスに対する心構え	・望ましい人間関係 ・身近な企業と結びつけ, 企業理念, 起業家精神を知る	・望ましい人間関係がビジネスでも大切であることが理解できたか。 ・企業理念や起業家の考えを知ることができたか。
第2学期	第3章 ビジネスと流通活動 ①経済活動と流通	・流通とは ・F A化 ・流通のはじまりと発展 ○プリントを使って復習	・流通が果たす役割を理解できたか。 ・流通の起源や成り立ちが理解できたか。 ・ <u>ノートの提出。</u>
	<u>第2学期期末考査</u>		

第3学期	第3章 ビジネスと流通活動 ②流通活動の特徴	・流通と消費の隔たり ・流通機構と流通経路 ・業態と業種	・流通経路やとりまく環境の変化について理解できたか。 ・商品によって流通経路が違うことを理解できたか。
	学年末考査	○プリントを使って復習	・ <u>ノートの提出。</u>

5 学習評価

評価の観点及び評価方法

関心・意欲・態度	ビジネスについて関心をもち、主体的に取り組む態度を身につけている。
思考・判断・表現	ビジネスの諸活動への適切な対応を目指して思考を深め、判断・表現する能力を身につけている。
技能	ビジネスに関する基礎的・基本的な技術を身につけている。
知識・理解	ビジネスに関する基礎的・基本的な知識を身につけ、経済社会の一員として望ましい心構えについて理解している。

観点 評価方法	観点 1	観点 2	観点 3	観点 4	備 考
学習状況の観察	◎	○	○	○	学習活動への参加態度
定期考査・小テスト	○	◎	◎	◎	学期末考査, 小テスト
提出物	◎	◎	◎	○	課題
実技	◎	○	◎	○	電卓計算

(◎＝観点の中で特に重視するもの)

以上を総合的に判断し、評価します。